

## 建築ウォッチング「空き家再生探訪ツアー」を開催

令和4年11月19日(土) JIA三重地域会主催の建築ウォッチングが開催された。三重地域会にとっては毎年恒例の行事で、今回は「空き家再生探訪ツアー」がテーマ。行先は伊勢神宮外宮の門前町である山田地区、その後、場所を移動し、河崎地区の町並みと保存再生建物を見学するという内容だった。

当日は町並みを見て歩くには最良の天気。コロナ感染症対策により参加定員を20名と限定していたが、他県からの参加も含め、ちょうど20名の参加者となった。

JR伊勢市駅前に集合後、午前10時から外宮周辺の散策を開始。今回、見学地の案内役として伊勢の歴史や町並み保全等に係わり活動されている三重地域会の高橋徹氏が案内役として参加、見学地各所で説明をして頂くというスタイルだった。

最初の目的地は『旧山田郵便局電話分室』。1923年(大正12年)に建てられた建物だが、現在はレストラン・ギャラリー・ショップとして利用されている。軒先にそりが付けられた独特な形状の赤い瓦屋根が特徴的な建物。今回、建物の一部を使って営業しているフランス料理店ボンヴィヴァンのオーナーの御厚意により内部を見学させて頂き、お話を聞く事が出来た。ここ数年はコロナ感染症の影響により来客数が伸び悩んでいて、試行錯誤しながら営業を続けているという事。こうした苦勞を乗り越え建物を使い続ける経営者があるからこそ、時代を経た建物が色褪せる事なく生き続ける事が出来るのだと実感した。

その後『式年遷宮記念 せんぐう館』に移動、展示されている数々の神宮式年遷宮の情報を見て、伊勢神宮と共にある地域の歴史等について理解を深めた。



続いて訪れた『旧御師丸岡宗大夫邸』では国の登録有形文化財に登録されている主屋、長屋門と築地塀を見学(これらの建物は慶長年間築造のもの)し、貴重な歴史遺産と、伊勢講を組織して「伊勢参り」の仕掛け人として活躍し、山田地区の自治を担った御師の歴史的偉業を学んだ。

午後からは河崎地区へと移動し、いくつかの空き家再生の実例を見学。築100年程となる商家の邸宅を改修し、ゲストハウスを営む『紬舎』ではオーナーがゲストハウス運営の難しさや楽しさを参加者に話してくれた。

ゲストハウスも例にもれず、ここ数年はコロナ感染症の影響が経営に大きく影を落としていた。それでも、来客が有る限り時間刻みで切り盛りし、忙しい日常を過ごしているという事。「仕事と地域への愛がなければ出来ません。」と語るオーナーの言葉がとても印象的だった。その後は時間をかけて河崎地区を散策し、旧家屋を再利用したレストラン、学習塾、居酒屋や古書店、雑貨ショップなど町並みの中に点在する様々な活用事例を見学した。

最後に『伊勢河崎商人館』を訪問。600坪もの敷地内にある江戸、明治時代築の町家と蔵群を見学。裏千家流の茶室や館内の展示物からは、当時の商家の繁栄ぶりと地域に及ぼした影響力の大きさを理解することが出来た。

見学後は、交流会と称し参加者全員が空き

家再生・まちづくりについての意見交換を行った。その中で話された高橋氏の町並み保全に対する取り組みは、非常に興味深い内容だった。町並み保全を進めるうえで必要な制度の整備と、それに伴う行政との協力と対立。土蔵(河崎の景観を印象付ける大きな要素となっている)を保存活用するために設けられた「伊勢河崎蔵バンクの会」では賃貸、賃借人のマッチングの難しさ等。

「河崎エリアは伊勢中心街に近く、観光拠点としては便利な立地、更には中心街近隣にも関わらず、静かで隠れ処的な雰囲気を漂わせる落ち着いた場所だ。場所としてのポテンシャルは非常に高い地区だが、それでも古い建物の保存、活用に注力しなければ少しずつ建物は解体され、町の景観を壊してしまう。」と高橋氏は語る。

全国的に空き家対策が課題となっている今、建物や町並みの保存再生・利活用の取り組みを学ぶ事はとても意義深い事。今回の建築ウォッチングは参加者全員にとって、貴重な経験であったに違いないと感じている。

山本 覚康 (JIA三重)

山本一級建築士事務所

